

(5) 附属図書館企画展の実施

人文社会科学研究科 大塚秀明

附属図書館協力者 篠塚富士男, 福島裕子, 峯岸由美

本プロジェクトの中心的活動である附属図書館企画展は、平成20年度は実施できなかった。

中央図書館の建物は、現行の耐震基準をみたしていないため、平成20年度より3ヶ年計画で本館部分の耐震補強工事が行われることとなり、20年度は本館1階・中2階・2階部分の工事が行われた。この影響で新館1階の貴重書展示室も利用できなくなったので、本プロジェクトでは貴重書展示室以外での企画展実施の可能性も検討したが、貴重書展示室のように一定の広さがあり、かつ空調や光量調節等の資料保存のための設備が整っている適当な場所はなく、20年度の企画展の開催は断念することとなった。

附属図書館においては、平成7（1995）年度以降、毎年特別展または企画展を行ってきたので、20年度に開催できなかったことはまことに残念であるが、耐震補強工事という事情ではやむをえないところである。ただ、前年度の本プロジェクトの活動（企画展の実施）と関連する新たな活動が19年度後半から20年度前半（工事開始前の6月まで）にかけて行われた。本プロジェクトがきっかけとなった図書館の活動の事例として、簡単に報告しておきたい。

19年度の本プロジェクトの活動として19年10月に開催した企画展「古地図の世界 - 世界図とその版木 -」では、中心的な展示品として『重訂万国全図』の版木を展示した。ただ、この版木には積年の汚れやカビがあったので、そのまま展示することはできない。このため、版木のクリーニングを本学人間総合科学研究科世界遺産専攻の松井敏也先生にお願いしたが、これがきっかけとなって、19年度後半から20年度前半（工事開始前の6月まで）にかけて、松井先生に貴重書展示室、貴重書庫、和装本書庫の環境調査をお願いした¹。この環境調査の調査項目は、光、空気環境、虫害の3つであったが、展示会との関係でいうと光の問題が特に重要である。

和装古書等を所蔵している図書館では、伝統的にシミやシバンムシのような虫の害に対する意識が強く、江戸時代から曝書などが行われてきたが、光による劣化の問題は、美術館・博物館に比べるとあまり意識されてこなかった。しかし、当館のように常設展示を行っている図書館では、この問題はきわめて重要である。このため、この調査では貴重書展示室の照度を測定して、年間の開室時間をもとに積算照度を算出し、光源により変褪色が起こるまでの照明時間と比較した。その結果、これまでの照度では、場所によっては年間30日の展示にしか耐えることができないものもあることがわかった。

しかし、劣化防止のためあまりに照度を落とすと、今度は暗くなりすぎて展示物が見えにくくなる。このため、松井先生からは、照度を落として常時点灯しておくよりも、見学者の来訪時にのみ照明を点灯させるセンサー感知式照明に切り替えてはどうか、という提案があり、この提案にしたがって貴重書展示室の照明を改修することとした。

これは今後の企画展・特別展の実施に際しても、光による劣化の問題への対処として有効なものであり、本プロジェクトの活動が資料保存の問題にも直結することを改めて示すこととなった。

1 この結果は以下で報告した。松井敏也, 篠塚富士男. 筑波大学附属図書館における環境調査の取り組み. 情報メディア研究. 2009, Vol.8, No.1, pp.1-10.